

第1問【フランク王国とキリスト教】

問題：

フランク王国とキリスト教の関係について、正しい記述を選べ。

選択肢：

- A. クローヴィスはアリウス派に改宗し、正統教義から逸脱してローマ教会と対立した。
- B. カール大帝は父ピピンの戴冠によって西ローマ皇帝としての地位を継承したとされる。
- C. ピピンはラヴェンナ地方をローマ教皇に寄進し、後の教皇領の基礎を築いた。
- D. カールマルテルはノルマン人の侵入を撃退し、フランク王国の独立を守り抜いた。

正解： C

解説：

- C(正) ピピンの寄進によって教皇領の基礎が築かれた(ラヴェンナ地方など)。
 - A: クローヴィスはカトリック(アタナシウス派)に改宗し、ローマ教会と連携した。
 - B: 戴冠を受けたのはピピンの子であるカール大帝本人である。
 - D: カールマルテルが撃退したのはウマイヤ朝であり、ノルマン人ではない。
-

第2問【ヴェルダン条約とフランク王国分裂】

問題：

フランク王国の分裂について正しい記述を選べ。

選択肢：

- A. ヴェルダン条約でフランク王国は東・西・北の三王国に分かれ、それぞれが独立した。
- B. 東フランク王国は後のフランドル地方とイタリア北部に継承されていった。
- C. ヴェルダン条約ではロタール1世が中部フランクを受け継ぎ、その後は断絶した。
- D. 西フランク王国は中世ドイツの母体となり、カール大帝の流れを引き継いだ。

正解： C

解説：

- C(正) 中部フランクはロタール1世が継承し、のち断絶。東西に分裂した。
 - A: 三分割は東・西・中であり、北フランクは存在しない。
 - B: 東フランク王国は後の神聖ローマ帝国の母体で、フランドルではない。
 - D: 西フランク王国はフランス王国の原型であり、中世ドイツではない。
-

第3問【ノルマン人の活動】

問題:

ノルマン人の活動について正しい記述を選べ。

選択肢:

- A. ノルマンディー公ウィリアムはフランス王を廃して西フランク王国を征服した。
- B. ノルマン人はパリ近郊を拠点に王国を築き、東フランク王国に服属していた。
- C. ノルマン人のウィリアムは1066年にイングランドを征服し、ノルマン朝を開いた。
- D. ノルマン人は西進してイスラーム世界を支配し、マグリブ地方に国家を建設した。

正解: C

解説:

- C(正)ウィリアム1世は1066年ヘースティングズの戦いでイングランドを征服。
 - A: フランス王はそのまま、西フランク王国は征服されていない。
 - B: ノルマン人はノルマンディー地方を拠点とし、王国は築いていない。ノルマンディー公国は西フランク王国に服属した。
 - D: ノルマン人はマグリブではなく、南イタリアとシチリア島に進出して、両シチリア王国を作った。
-

第4問【ローマ＝カトリックと十字軍】

問題:

ローマ＝カトリック教会と十字軍に関する正しい記述を選べ。

選択肢:

- A. 第1回十字軍は教皇グレゴリウス7世の提唱によって開始され、聖地奪還を果たした。
- B. 第4回十字軍ではイェルサレムを奪回し、イスラーム勢力との和解が成立した。
- C. 第3回十字軍にはイングランド・フランス・神聖ローマの君主が参加している。
- D. 十字軍遠征において、宗教騎士団が創設され、その中のヨハネ騎士団はフランス王に廃絶された。

正解: C

解説:

- C(正)第3回十字軍にはリチャード1世(英)、フィリップ2世(仏)、フリードリヒ1世(神聖ローマ)が参加。
- A: 第1回十字軍はウルバヌス2世がクレルモン宗教会議で提唱した。
- B: 第4回十字軍はイェルサレムではなく、コンスタンティノープルを占領した。
- D: フランス王フィリップ4世に廃絶されたのはテンプル騎士団。ヨハネ騎士団は、のちにマルタ島へ移

り、対オスマン帝国軍を追い払った。

第5問【ビザンツ帝国の文化・軍事】

問題：

ビザンツ帝国の文化や軍事について、正しいものを選び。

選択肢：

- A. ビザンツ帝国では7世紀以降、ラテン語が公用語とされ、西方教会の典礼を採用していた。
- B. ユスティニアヌス帝はローマ法大全を編纂し、東ローマの法体系を確立した。
- C. レオン3世はイコン崇拝を強く支持し、キリスト像の礼拝を徹底的に奨励した。
- D. 8世紀以降、ビザンツ皇帝はフランク王と連携し、西ローマ帝国の再建に尽力したことで知られる。

正解： B

解説：

- B(正)ユスティニアヌス帝のもとでローマ法大全が編纂され、帝国法の基礎となった。
 - A:ビザンツではギリシア語が使用され、東方教会の伝統を維持していた。
 - C:レオン3世はイコン破壊令を出してイコン崇拝を禁じた。
 - D:ビザンツ皇帝はカール大帝の戴冠を否定し、西ローマの再建に敵対的だった。
-

第6問【ギリシア～ビザンツ～中世都市：文字・文化の伝播】

問題：

古代ギリシアからビザンツ帝国、中世ヨーロッパ都市にかけての文化・文字の影響について正しい記述を選び。

選択肢：

- A. ギリシア文字はイスラーム世界で改良され、アラビア文字の基となったと考えられている。
- B. ローマ＝カトリックではギリシア文化の影響を受けないスコラ哲学が生まれた。
- C. キリル文字はビザンツ帝国から伝えられたもので、スラヴ正教世界の基盤となった。
- D. 中世都市の商人はアラム文字を用いて、東方貿易における契約を記録していた。

正解： C

解説：

- C(正)キリル文字はビザンツ帝国の宣教師が創出し、スラヴ正教世界で広く普及した。
- A:ギリシア文字はイスラーム世界へ伝播せず、ヨーロッパの文字の基となり、アルファベットのはじまりとされた。

- ✗ B: スコラ哲学は、トマス＝アキナスによって神学にアリストテレス哲学を融合させたものである。
 - ✗ D: 中世ヨーロッパではラテン語や各地域語が契約や商取引に使われた。アラム文字ではない。
-

第7問【ノルマン人・イスラーム・ビザンツ：征服と文化】

問題：

ノルマン人、ビザンツ帝国、イスラーム勢力の拡大に伴う文化的影響について正しい記述を選べ。

選択肢：

- A. ノルマン人はパレルモやナポリを拠点に征服王朝を築き、イスラーム建築を積極的に採用した。
- B. ビザンツ帝国はイスラームと協力し、十字軍を通じて共同で聖地を管理していた。
- C. ノルマン人は西ゴート王国の版図を継承し、イスパニアにおける支配を確立した。
- D. イスラーム勢力はビザンツ帝国の協力で地中海全域を支配し、ローマ文化を継承した。

正解： A

解説：

- ✓ A(正) ノルマン人はシチリアなどで征服王朝を築き、イスラーム建築の影響を受けた。
 - ✗ B: ビザンツとイスラームは敵対関係で、共同管理の事実はない。
 - ✗ C: 西ゴート王国の後継はレコンキスタ勢力であり、イスラーム勢力の支配も長かった。
 - ✗ D: 地中海制覇とローマ文化継承はイスラームの視点ではなく、むしろ対立していた。
-

第8問【中世都市(図付き)：商業圏と都市機能】

問題：

中世ヨーロッパの商業都市とその特徴について正しい記述を選べ。

選択肢：

- A. ヴェネツィアは北海貿易圏の中心都市であり、イングランド羊毛の中継港であった。
- B. パリは地中海貿易の港湾都市として栄え、レヴァント地方と直接交易を行った。
- C. ブリュージュはロンバルディア同盟の中心都市として、北ドイツ諸都市を指導した。
- D. リューベックはハンザ同盟の盟主的都市として北海・バルト海交易を統括した。

正解： D

解説：

- ✓ D(正) リューベックはハンザ同盟の中心で、北方海域の交易ネットワークを統括。
- ✗ A: ヴェネツィアは地中海東部の貿易港で、北海とは関係が薄い。
- ✗ B: パリは内陸都市であり、港湾都市としての機能は限定的。

✗ C: ブリュージュはフランドル地方の中心都市で、北イタリアのロンバルディア同盟とは全く関係ない。

第9問【都市と教会・封建制度】

問題:

封建社会と都市社会、教会権力の関係について正しい記述を選べ。

選択肢:

- A. 封建領主は都市の自治を認めず、商人ギルドを領内から追放する政策を採った。
- B. 司教座都市では司教が領主と並ぶ権力を持ち、都市の政治に関与することがあった。
- C. 封建制度においては、教会権力が領主になることは基本的にはなかった。
- D. 中世都市では、商人ギルドが同職ギルドの姿勢独占に対してツunft闘争をしかけた。

正解: B

解説:

- ✔ B(正) 司教座都市では聖職者が世俗権力も有し、都市統治に関与する例があった。
 - ✗ A: 一部封建領主は自治都市と結び、市場収入を得ようとした。
 - ✗ C: 教会権力でも領主として農奴を支配していた聖界諸侯が存在した。
 - ✗ D: ツunft闘争は同職ギルドが商人ギルドに対して起こしたモノで、ツunftとは同職ギルドのこと。
-

第10問【スラヴ人の活動と文化伝播】

問題:

スラヴ人の国家形成と文化的影響に関して、最も適切な記述を選べ。

選択肢:

- A. キリル文字は西スラヴのポーランド人に広まり、ローマ教皇との関係を深めた。
- B. チェコのベーメン王国は東ローマ帝国と連携し、ビザンツ式典礼を導入した。
- C. セルビアやブルガリアはビザンツの影響を受け、東方正教文化を継承した。
- D. 南スラヴのほとんどが東方正教会で、ロシア人もその1つと言える。

正解: C

解説:

- ✔ C(正) セルビアやブルガリアではビザンツ帝国の影響により、東方正教会が広まった。
- ✗ A: キリル文字は主に東スラヴ・南スラヴに広まり、東方正教会の総主教との関係を深めた。
- ✗ B: チェコは西方教会の影響が強く、ビザンツとは直接的関係は薄い。
- ✗ D: クロアチア人は南スラヴでもローマ＝カトリック。ロシア人は東スラヴなので、南スラヴではない。